



かえるの声

令和 6年 1月31日(水) No. 11

途別小学校の教育目標

あかるい子 (徳)
かしこい子 (知)
たくましい子 (体)
知・徳・体をバランスよく育てよう

当たり前という奇跡

校長 佐竹 宏子

1月15日の始業式の日、子どもたちの元気な顔を見ることができて、とてもうれしい気持ちになりました。それと同時に、新学期が始まり、子どもたちと会えるという「当たり前」のことが、本当にありがたいことだと今年の始業式では殊更強く感じました。私がそんな思いに至ったのは、きっと元旦のあの自然災害がもたらした被害の様子を見続けて冬休みを過ごしていたからではないかと思います。

始業式の中では、諸外国の十二支の話を使いながら、自分が当たり前だと思っていることも実は他の人にとっては当たり前ではないということ子どもたちに話しました。そして、子どもたちが当たり前前に学校に登校した今日もなお、学校が避難所になっていて、3学期を始めることができない小学生や、よその学校で3学期を始めなければならない小学生がいるという話もしました。そして、今、被害を受けることなく平和に日常を営むことができて私たちにできることは、今ある「当たり前を当たり前として過ごせる毎日」に感謝しながら一日一日を大切に過ごすことではないかと伝えました。当たり前という奇跡、大人でも日常の中でついつい忘れがちです。世界に目を転じれば、戦争で「生きている」ことの方が奇跡だという毎日過ごしている人たちもいます。

私事ですが、先日母の三回忌を執り行いました。その席で教え子の僧侶がこんな説法をしてくれました。

「今回の災害の様子を見て、なんと気の毒なとか、本当に大変なことだと思いながら心のどこかに(ああ、自分の身近で起きなくてよかった)と思う気持ちはありませんか?あるのが人間なのです。そういう気持ちを抱くのは人間として当たり前のこととしたその上で、自分じゃなくて良かった、で終わるのか今無事にあることがありがたいと感謝の気持ちをもつことができるのか、そこに大きな違いがあります。自分事として捉えているか否かの違いなんです。」

奇しくも、冬休みの間中、自分が考えていたことと重なる話を聞き、「やはりそうなんだ!」と膝を打つような気持ちになりました。年始にあたってあのような大きな災害が起こったことの意味のひとつは、

きっとこのようなどころにもあるのではないのでしょうか。今年の自分なりのテーマと

「当たり前という奇跡に感謝する日々を過ごす」

ということ。自分とは違う他者に思いを致しながら、今あることに感謝して一年を過ごしていこうと思いを新たにしました。

保護者の皆様はどんな気持ちで新年を迎えられたでしょうか。

今年は辰年の中でも、甲辰(きのえたつ)という年回りだそうです。「きのえたつ」は「成功という芽が成長していき、姿を整えていく。」という意味だそうです。これは今まで頑張ってきたことが形となって表れるということだそうです。今年一年がとべっ子たちにとって、そして保護者の皆様、途別地域の皆様にとって実り多き一年となりますことをお祈りしています。

ところ変われば・・・
～世界の十二支～

トルコでは、日本のトラ→ヒョウ
ブルガリアでは、日本のトラ→ネコ

アラビアでは、日本の辰→ワニ
イランでは、日本の辰→クジラ

アラビアは今年がワニ年、イランではクジラ年なんですね。

